# PLAT NEWS

## 2

**1/24［土］- 2/15［日］** 第24回とよはしまちなかスロータウン映画祭
スロータウンシネマ◉PLATアートスペース

**4［水］** プラットワンコインコンサート 中村由紀子「マリンバで紡ぐ水の変容」◉PLATアートスペース

**7［土］** 第13回桜丘高等学校ダンス部自主公演 Dance' em All◉PLAT主ホール

**11［水・祝］・12［木］** 第43回華道家元池坊豊橋支部支部花展
草木の命（伝統・未来・紡ぐ）◉PLATアートスペース

**13［金］・14［土］** 『サド侯爵夫人』◉PLAT主ホール

**14［土］** 第24回とよはしまちなかスロータウン映画祭 シネマ&トーク
ふるさとロケ応援企画 安田顕 映画「朽ちないサクラ」◉PLATアートスペース

**21［土］** 音楽で巡る世界旅行◉PLATアートスペース

## 3

**7［土］・8［日］** 市民と創造する演劇『赤鬼』舞台手話通訳付きバージョン◉PLATアートスペース

**11［水］** プラットワンコインコンサートResonants「フランスから広がる音の旅」◉PLATアートスペース

**20［金・祝］- 22［日］** 『いのこりぐみ』◉PLAT主ホール

**28［土］・29［日］** 志多ら豊橋公演 つながる和太鼓「おもやひ」◉PLAT主ホール

**28［土］** 裕子ピアノ教室フロイデ ピアノコンサート2026 ～ Freude an der Musik ～◉PLATアートスペース

## 4

**11［土］・12［日］** 『るつぼ The Crucible』◉PLAT主ホール

**26［日］** プラット2026年度プログラム説明会◉PLATアートスペース

**29［水・祝］** ケムリ研究室 no.5『サボテンの微笑み』◉PLAT主ホール

TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

表紙／小栗 旬『いのこりぐみ』
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限会社STAFF
令和8年1月発行76号［年4回発行］

# PLAT NEWS

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2026年2月－4月
vol.76

TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

## プラットニュース

**1**
Column:1
『いのこりぐみ』
一体誰がモンスター？
三谷幸喜の新作は4人の俳優による
ワンシチュエーションの会話劇

**3**
市民と創造する演劇『赤鬼』
舞台手話通訳付きバージョン
Interview:1
赤鬼は縁切り神社の石
元の姿がわからない、
人の想いがついたもの。
樋口ミユ
Report
台本を丁寧に沁み込ます
樋口ミユの演出術
“達人”の間合い!?
武田幹也のダンス道
抽象表現にも言葉は要る
棚川寛子の音楽セオリー

**7**
Pura pura
劇場の公共性と複数制を
考え続けている。
木ノ下裕一
「とても小劇場には…」
と考えず、始めることが大事。
桑原裕子

**9**
Information
PLAT主催・共催公演情報
Ticket center

**13**
Column:2
『るつぼ The Crucible』
信念を貫くプロクターが
投げかける問い。
上村聡史
不朽の名作に挑む喜び。
坂本昌行

**14**
Sponsor
Support

# 一体誰がモンスター？
# 三谷幸喜の新作は4人の俳優による
# ワンシチュエーションの会話劇

取材・文 三浦真紀

**三谷幸喜作・演出の新作はモンスターペアレントをテーマにしたワンシチュエーションのディスカッション劇だ。舞台は小学校の教室。放課後の面談。息子の担任を変えてほしいと無理な主張をする母親（菊地凛子）に、教頭（相島一之）と若手教員（小栗旬）が対応する。やがて担任教師（平岩紙）も現れて……。**
**展開が気になるこの作品。そもそもこの企画は、菊地凛子から始まったものだという。**

菊地――大河ドラマ『鎌倉殿の13人』が終わってすぐの頃、小栗旬くんの舞台『ジョン王』を観ました。キャストの皆さんが非常にエネルギッシュで、ここに自分が入ったら何に感動し、突き動かされるのだろう？いつか舞台をやりたい！と意欲が湧き出しました。当時、私は「のえ」役をまだ引きずっていたのに、旬くんはドラマの時とは全くの別人だったことにも驚きました。そのバイタリティとエネルギーに感動して、旬くんに「舞台をやりたい」と話したんです。

小栗――「シェイクスピアをやったら？」なんて話した記憶はあります。しばらくして突然、凛子ちゃんから三谷幸喜さんと食事するからと呼ばれました。その場で三谷さんがスケジュールの話を始めて「ここなら空いているから」と。僕にはよくわからないまま（笑）、この話が動き出しました。もちろん僕自身、次はぜひ三谷さんの舞台に出たいと思っていたので嬉しかったです。三谷さんが、今回は笑いを封印した社会派作品をやると仰っていましたが、準備稿を読んだら、かなりのコメディでした。凛子ちゃんから「私ってこんなに変ですか？」とメールが来ましたよ（笑）。

**菊地がシェイクスピアではなく三谷を選んだのには理由がある。**

菊地――三谷さんにはご縁があり、私のことをよく知った上でステレオタイプの役ではなく、やりがいのある役、できるかな？と思うけれど最後にはその人物が好きになる、そんな役を与えてくださる。いわば俳優にチャンスをもたらしてくれる方なんです。ドラマ「もしもこの世が舞台なら、楽屋はどこにあるのだろう」では、私は「おばば」役。なぜおばばと呼ばれているのか、彼女が自ら名乗ったのか、年齢はいくつ？などなど、とても想像を掻き立てる役でした。私は役をどう演じていくのか、その過程を考えるのが好きで、本当に幸せで楽しい時間なんですね。三谷さんなら初舞台でも自分が想像のつかないところへ連れていってくれるのではないかと思い、お願いしました。

**主演の小栗は親世代の一人として、モンスターペアレントというテーマは遠くないと感じている。**

小栗――親として興味のある世界ですね。今時の学校は先生も大変だし親も大変。一体誰がモンスターなんだ？みたいな話です。多分、三谷さんもお父さんになっていなかったらこういう話を書こうと思わなかったんじゃないかな。親として子供を守ってあげたいと思ってやっていることが、他者から見ると少し面倒くさいことになっている。こんな話は現実でたくさん起きているんじゃないかと思います。

僕、日本人の役を舞台でやることが少ないんですね。外国人、しかも国などとてつもなく大きなものを背負った役が多く、等身大の現代人はほとんどやったことがない。今回は普通に喋って立っていていいんだと、それだけで楽しみです（笑）。舞台での日本人役は長塚圭史さん作・演出の『あかいくらやみ～天狗党幻譚～』以来かな。

**キャストは小栗、菊地のほか、独特の存在感を放つ平岩紙、三谷作品には欠かせない相島一之と手練れの舞台人が出演する。**

平岩――三谷さんの舞台は翻訳劇『ドレッサー』以来2回目。今回、三谷さん書き下ろしの会話劇に、豪華なキャストの皆さんとじっくり向き合えることがとても嬉しいです。どんなお芝居だろう？ と思ったらしっかりした会話劇で時間軸はそのまま、当て書きも初めてでありがたいです。それもごく普通の人物として書いていただいたことが嬉しくて、役に自然に入り込める気がします。

私はまだモンスターペアレントに会ったことがないと思っていて、イメージとしてはスネ夫のママ（笑）。子供を大事にすることは良いことだけど、他人のことを考えられない人かな、と。今回、私はこの先生役を自分勝手に作りたくないというか、意見を聞きながらみんなで作っていきたい。このお芝居ならではの臨場感と4人による会話のうねりをぜひご体験ください。

相島――準備稿を読んだら以前、東京サンシャインボーイズでやった『12人の優しい日本人』を彷彿とさせる会話劇でした。今さまざまな問題のある教育にスポットを当てつつ、どんでん返しやミステリーの要素が加わり、めちゃくちゃ面白い！ワンシチュエーションでの4人芝居、そしてノンストップの一幕もの。演劇の原点のような作品になると予感しています。共演の皆さんは映像ではご一緒しましたが、舞台では初めてなので、それも楽しみです。稽古場では、三谷さんが面白いと思うものを要求し、それをいかに僕らキャストが具現化するかが勝負かと。

モンスターペアレンツは学校だけではなく、お客様優先のカスタマー社会にも通じるなと思います。社会問題を含みながらも、個人的にはこの物語が演劇としていかに面白くお客さんに届けられるかに全精力を注ぎたい。とても魅力的な俳優陣が出ずっぱりで生で言葉を戦わせ合う、そんなぜいたくなひと時に浸っていただきたいです。

Column:

# 赤鬼は縁切り神社の石
# 元の姿がわからない、人の想いがついたもの。

## 樋口ミユ

脚色・演出

取材・文 小島祐未子

## 市民と創造する演劇『赤鬼』

### 舞台手話通訳付きバージョン

**30年の時を経た野田秀樹の傑作を、より多様な市民と分かち合う。**

**3月7日[土]13:00開演／17:30開演**
**8日[日]13:00開演**
**作＝野田秀樹**
**脚色・演出＝樋口ミユ**
**振付＝武田幹也**
**音楽協力＝棚川寛子**
**出演・演出補＝山崎皓司**
**舞台手話＝加藤真紀子、高田美香、水野里香**
**出演＝石川明弘、磯和真帆、板坂重信、今泉伸之介、北野 黎、近藤樺楊、佐藤伸夫、白井小百合、鈴木俊介、鈴木宏彰、棚橋佑衣、塚原知世、土倉真衣、伴 美月、藤井佳子、古田 英、古田久子、堀 健太、森川理文、山田梨央／山崎皓司**
**会場＝PLATアートスペース**

Interview:

**企画の経緯をお聞かせください。**

樋口――「市民と創造する演劇」が10年を迎え、次のステージに行きたいというお話がありました。また私はプラットで舞台手話通訳付き公演を2度演出しています。市民劇でも鑑賞サポートなど実施してきたそうですが、より多様な人たちが鑑賞できることを目指して、市民劇と舞台手話通訳付き公演の二つを掛け合わせたいというオファーを受けました。

**昨年2月の「ワークショップ&ショーイング『赤鬼』」でも市民と創作を行いましたね。**

樋口――今回の試演として10日間の稽古で本番までもっていったんですが、みなさん素晴らしいんですよ。10日間というのがある種のスパイスになったのかもしれませんけど、バイタリティもやる気もすごくて驚きました。そもそもやりたいという想いがあって、想いが人を動かしている。それはプラットが10年かけて作った土台なんだとも思いました。

**オーディションはどんな基準で選考を?**

樋口――赤鬼役はプロで、市民からメインキャスト13人とアンサンブル7人を選びました。オーディションには昨年のプレ公演に出た方がほぼ来てくれたので、土台を共有している部分が強く影響したところはあります。でも、それを乗り越えてなお輝く人たちがいた。だから多くはプレに出てくれた人ですが、新たな人たちもいます。市民劇でオーディションを行うのは結構辛いですよね。でもプラットではオーディションを10年やってきたからこそ、みんな意欲的なのかなとも思います。選ばれなかった悔しさは必ず糧になるし、選ばれた人は大変でも踏ん張らなきゃいけない。オーディションという少しの負荷をかけることが成長につながったんじゃないかと。例えばトマトはいつも水をあげていたら美味しくならない。でも極限まで与えないと、欲していた分ものすごく吸収する。そういう作用が人にもあると思うんです。プラットに関してはオーディションが有効に働いているように感じますね。

**『赤鬼』は1996年初演ですが、今どう読み解きますか。**

樋口――初演では赤鬼役をイギリス人俳優が演じましたよね。30年前の日本ではそれはセンセーショナルだった。日本の戯曲で人種の違いを問う舞台に、本当に英語を話す俳優が出ることはものすごく納得できるものだった。30年前は思った以上に過去なんですよね。その頃と違って、今は多様といえば多様になって、大阪の心斎橋に行くと「日本人は私だけか?」と思う時がたくさんあるくらいに、もう今は当たり前にいろんな人種の人たちが旅行に来るし、住んでいる。どこに誰がいて何が起こっても、もうそんなに驚かない社会が当たり前になってしまっている。人種の違いに驚いていられた時とはもう変化してしまった現在で、赤鬼をどう捉えるかを考えた時、京都の縁切り神社を思い出したんです。縁を切りたい人の名前を紙に書いて石に貼るんですが、みんな貼るから今は巨大な「こんもり」になっています。赤鬼はコレだと思いました。元の姿がもうわからない、でも人の想いがくっついたもの。「アイツどっか行け、別れたい、許せない」という無数の想いがくっついた時、初めとは違う何かになる。人も同様で、中身は違わないのに相手に危険を感じて…。それは恐怖なんですよね。不安や疑い、あらゆるネガティブな感情…。ただ、これは人が生き延びたいから出てきた恐怖。安心して生きるには恐怖を取り除かなければならない。その恐怖を引き受けてくれるのが赤鬼だった。でも「あの女」だけが得体の知れない赤い塊に興味を持ち始めた時、内側に人間を見出す。そんなサブテキストがつながっていって、30年経った違和感もなくなると思えたんです。

**明らかな悪役はいませんが、無責任で流されやすい大衆は今にも通じるのかなと…。**

樋口――そもそも悪役が出てきても観客は自分と重ねないですよね。自分を悪だと思いたくないから。でも「後ろめたさ」が異形(いぎょう)の者を生む。そして後ろめたさは誰にでも絶対ある。浜の人たちがどう後ろめたさを持つか。演じる役者がその自覚を持って舞台上にいると、台詞になくても観客はそれをキャッチしてくれるんじゃないかと思います。

**見えない意識や空気を伝えられるのは演劇の強みですね。**

樋口――本当は見る以上に演劇をやるのがいちばん良くて、市民劇ってすごいと思うんですよ。演劇をやると「こういうことなのかな」という空気が体感できて、その体感を得て客席に座ると作品の見方が変わるんじゃないかと。プラットではスタッフも募集するでしょ? それもいいですよね。やっぱり出たくない人のほうが多いはずで、でも何か携わりたいと思う人にも市民スタッフという枠組があって良いなと。全部は来られないけどちょっと参加できる。ちょっと来て作業すると、みんなで話せる。いいですよね。

**社会に赤鬼を生まないためにも良い?**

樋口――赤鬼を生まないためにはコミュニケーションがいる。市民劇は祭りだと思うんですよ。地域に祭りがなくなってきて、市民劇が祭りの一つになる。でも怖いことに、集まりやコミュニティが生まれると赤鬼も出るという…。コミュニティを作った時、そこから外れていくものや無意識に排除してしまうものを見逃さないようにしないといけない。何事にも裏表はあり、それを知っているだけで私たちは過ちを回避できるんじゃないかと思います。

**樋口ミユ**[ひぐち・みゆ]
劇作家・演出家。Plant M主宰。劇団Ugly duckling旗揚げ以降、解散までの劇団公演32作品の戯曲を執筆する。劇団解散後は、座・高円寺の劇場創造アカデミー演出コースに編入し、佐藤信氏に師事。2012年にPlant Mを立ち上げる。大阪、東京とフットワーク軽く飛び回り各地で公演をしている。2011年から2021年の10年間、3月春分の日に東日本大震災のチャリティリーディングを行った。

# 市民と創造する演劇『赤鬼』

## 舞台手話通訳付きバージョン 稽古場レポート

**12月5日[金]～7日[日]**
**スタッフ＝樋口ミユ(脚色・演出)、武田幹也(振付)、棚川寛子(音楽協力)、山田朋佳(演出助手)、石坂杏子(制作助手)**
**会場＝PLAT創造活動室A**
取材・文 小島祐未子

稽古に先駆ける12月、オーディションで選ばれた出演者を対象にワークショップが行われました。初日はメインキャストが全員参加。翌日からアンサンブルも加わり、稽古場は早くも熱気を帯びていました。スタッフは樋口をはじめ、前述のショーイングで出演・演出補を務めた武田幹也、過去にも市民劇を支えてきた棚川寛子らが参加。和気あいあいと自由闊達に創作する座組には、立場にとらわれず共に創造する意識が満ちていました。

Report

### 台本を丁寧に沁み込ます 樋口ミユの演出術

初日冒頭はメインキャスト13人とスタッフの自己紹介。10代から70代まで顔ぶれは幅広いですが、ワークショップ&ショーイング参加者、過去の市民劇や「高校生と創る演劇」の経験者が多いせいか、必要以上の緊張感はありません。樋口指導のもと入念なウォーミングアップを終えると、本格的にワークショップが始まります。

全体の軸は「オノマトペ」を使う課題でした。色や感情を「キラキラ」「しくしく」などの擬音・擬態語で表現。キャストは2組に分かれて通称「魚の目」という隊形を作り、進行方向を変えながらオノマトペを発します。お題の言葉をオノマトペで伝えるのもさることながら、フォーメーションを崩さず動くのも難しい様子。

初めて台本の読み合わせをした後、今度は劇の展開をオノマトペで表現してみます。場面を思い出した人からオノマトペとそれに合う動きを繰り出し、他の人は真似ながら行進。グループ全員が終幕したと思うまで続けます。狙いは劇中の空気や物語に渦巻く言語化できないものを身体で感じ、つかんでいくことにありました。

2日目、台本の読み合わせをした後また2組に分かれて劇の前半・後半を担当、オノマトペと動きで表現します。この日は見学に来た舞台手話の加藤真紀子、高田美香、水野里香も一部参加。3人は過去2度の舞台手話通訳付き公演で樋口演出を経験してきた歴戦の猛者。急な要請にも落ち着いたものです。なお、舞台手話通訳者も浜の人という設定なので、一緒に空気を感知できたことは今後に生きそうです。

グループワークの後、前半組・後半組が大筋を5分ほどにまとめて発表。その動画を見て、各組3つずつオノマトペと動きを選びます。どの場面だったのか答え合わせしながら計6つが決定。これらは劇本編に反映されます。

最終日には台詞の覚え方に関する指導もありました。樋口流のポイントは「自分の台詞だけ句読点を省いてノートに書き出す」「言葉の意味・言い方・感情を考えず丸暗記する」「1場ごとに登場人物と起きる出来事をまとめ把握する」など。武田と棚川のワークショップも含めた3日間を通じて、キャストは自分のやることだけに集中するのではなく、周囲に神経を張り巡らせ、一人ひとりが戯曲を全身でとらえなければいけないのだと感じました。

### “達人”の間合い!? 武田幹也のダンス道

2日目夕方からは武田のダンスワークショップが実施され、アンサンブル7人も合流しました。最初に樋口のリクエストで武田が短いソロを披露。複雑でシャープな振付にギャラリー一同、大きな拍手を送りました。そして余韻も冷めやらぬ中、準備運動開始。この時すでに重要な主題が…！「お爺さんだが達人」というイメージで膝の力を一瞬抜いてから体勢を戻す運動があり、武田は室伏広治や大谷翔平らアスリートも例に挙げながら緩急をつけた身体のコントロールを解説。若干ユーモラスにも映る動きは後々まで活きます。その後、ペアやトリオになって他者の動きを真似る＝トレースする課題が始まり、動きの統一にはイメージの統一が重要であることもわかってきました。

後半のテーマは質感。決まっていた6つのオノマトペと動きに「透明感」「重さ」「セクシー」「ガサガサ」といった質感を加えてみます。最後2組に分かれて発表を行うと、武田から再び「合間に達人を入れる」と指示が飛びました。他にも「ダンスの役割は何かの説明ではなく、他者の想像力を引き出すこと」や「振付どおり踊るだけではダメで、何かを体現しなければならない」といったダンスの根本をキャストと共有していました。

### 抽象表現にも言葉は要る 棚川寛子の音楽セオリー

音楽ワークショップの皮きりは意外にも紙を用いる課題。1枚の紙を折ったり切ったりして立体構造物を作るのですが、一人が説明しながら作業し、他の人は背を向けて同じものを作ります。しかし、かなり丁寧な説明でもズレていく人が続出。これは一度つまずくとわからなくなる演奏トラブルと同じだそうです。会話にはエネルギー・間合い・了解が必要で、聞き手は予測変換していないか？最後まで相手の話を聞いたか？と棚川は問います。また音楽には抽象性が強くても、他者と共有するには言葉が不可欠だとも語りました。

実際の音楽プランに話が進むと、『赤鬼』が閉鎖的な集落の物語であることから棚川は「その土地だけに伝わる共通言語をリズムで作りたい」と提案します。そこから4組に分かれ、赤鬼たちのいる浜を絵で想像。各組が絵を説明すると、地形だけでなく人口や生業、信仰などが浮かび上がってきました。後半では「集まれ」「ゆっくり」のような合図や独自の挨拶をリズムで創作。最後に動きも付けて全員でリズムを刻んでみると、またまた武田から達人の指示が飛び出しました。終了後には言葉とリズムを動画で記録。全員で共有して、本番に採用できるか可能性を探ることにしました。

# 「とても小劇場には…」と考えず、始めることが大事。

## 桑原裕子

穂の国とよはし芸術劇場 芸術監督

桑原――今までインタビューさせていただいた芸術監督の方々は、脚本家、演出家の方がほとんどでしたが、ドラマトゥルクという形で木ノ下歌舞伎に関わってこられた木ノ下さんが、まつもと市民芸術館の芸術監督になられて2年目の現在の関わり方と、初めて芸術監督にとお声がかかった時にやりたかったことをお聞かせください。

木ノ下――大きなお仕事なので、かなり迷いました。その時に、後押ししたのが二つありました。ひとつは、複数による芸術監督制だというところ。まつもと市民芸術館に串田和美さんという希代の演出家がいらしたように、これまで圧倒的なカリスマ性と作風を持った演出家が芸術監督をすることが多く、大きな成果を生み出してこられた。しかし、これからはそれとは違う形もあり得るのではないかと思ってました。お話をいただいた時期はちょうどコロナ禍で、劇場文化への風当たりが強く、公共ホールの存在意義も問われ直されていると感じていました。複数制ならば、「いや、これは社会にとって必要なんです」「利用する人だけではなくて、この街に劇場があることが、街にとって必要なんです」と言う発信もより多角的にできるだろうし、劇場の幅も広がるだろうと思い、お引き受けしました。

舞踊部門に振付家の倉田翠さん、音楽部門は俳優の石丸幹二さん、そして僕を含む3人でやっている芸術監督団という複数制。ジャンルや表現の出自が異なる3人が集まっているところに新しい面白さがある。同時に、「まだ舞台芸術が届いていない方にどう届けるか」という共通した興味を持っている3人なので、それがすごく楽しいし、やりやすいですね。

桑原――面白そうだし、うらやましいというか、いいですね。年間プログラムなども3人で考える感じなのですか。

木ノ下――はい。大体、年間30本ぐらいの主催公演の3分の1が芸術監督の関わっているプログラムです。残りの3分の2はプロデューサーや制作担当の企画です。もちろんこれらについて意見を聞かれることはありますが、基本的にお任せしています。それも重要で、3人のものばかり主催に並ぶと多様性がなくなる。多様な文化芸術を松本の方々に見ていただくことが一番大事です。監督団は月に1回程度会議をします。大きなテーブルに各自の企画を出して、年間のプログラムを組み立てていく。全員がプログラムを把握し、各々がそれをなぜしたいと思っているのかまで共有できるようにしています。

もう一つは、「公共性」についてすごく考えていた時期だったということ。例えば、障害のある方にもご覧いただけるような工夫や活動を自分の劇団でもやりはじめていましたが、一劇団では、予算も人的にも限りがある。劇場運営に携われればもっとできることが増えるのではないかと思いました。

桑原――今度PLATに来ていただく、まつもと市民芸術館プロデュース公演は、始めから鑑賞サポートありきの作品ですが、「目や耳の不自由な方に楽しんでいただくため」のアクセシビリティや鑑賞サポートという言葉自体に、まだなじみがない方もいらっしゃると思います。音声ガイドや字幕は想像がつくし、実際にご覧になった方も多いと思うのですが、私も以前、劇作家協会でアクセシビリティ講座を拝見した時に、手話通訳者の方が演者のように舞台に立ち、通訳しながら芝居する舞台を観させていただいた時に、こんなやり方があったのかと、びっくりしたし、面白かったんです。木ノ下さんが今お考えになっている、アクセシビリティ込みの公演というのはどういうことでしょうか。

木ノ下――目指すところは、それらがあって当たり前の世界にすることだと思います。私たちが今、洋画を観に行くと、吹き替えとか字幕が付くのは当たり前になっているのと同じように。その時に大事なのは、健常者と呼ばれるお客さんにも、鑑賞サポートというものがあり、どういうことが行われているのかをしっかり発信していくことだと思います。そもそも劇場は聞こえない方も見えない方も、様々な個性を持った人が集まって、一つの場所と時間を共有する場なんだということを再確認する。そのためには、鑑賞サポートへの理解を当事者だけではなく全員で深めていかないといけないと思っています。

桑原――公演期間中、全部その形でやるということですよね。

木ノ下――今、鑑賞サポートはどこかオプション扱いで、予算があればやるが、ない時にはやらないということになりがちですよね。でも、本来、鑑賞サポートって照明や音響と同じように作品にとって重要なテクニカルです。見えない方にとっての音声ガイドは照明と同じ役割を果たしますし、聞こえない方にとっての字幕は音響でもあります。字幕のデザインや手話通訳者の立ち位置、音声ガイドの内容などはお客さんの体感を大きく左右するという点で、演出の領域でもありますよね。例えば、歌舞伎で見得（みえ）をする時に、バッタリと附け（つけ）（拍子木を打ち付ける音）を打ちます。その起源については諸説ありますが、ここが見せ場ですと観客の注意を引くために音を鳴らしたとも言われている。真っ白く顔を塗る白塗りも、昔の暗い芝居小屋ではあれぐらいでないと顔が浮かび上がらない。だとすると、今私たちが歌舞伎の醍醐味として、附けがかっこいいよねとか、白塗りのお化粧が美しいよねといっているそれらの演出は、元々、情報保障から始まったとも言えます。字幕も手話通訳も音声ガイドもゆくゆくは、附けの音や白塗りのように演劇の醍醐味になっていく可能性がある。そうならないといけないと思っています。

桑原――アクセシビリティ講座を拝見した時も、車椅子の方や盲導犬を連れている方のスペースの確保とか、劇場に誘導する方も必要とか、劇場に誘導する人員が必要といったお話を伺って、「とても小劇場には…」と悩んだのですが、まずは始めることが大事だと、お話を伺って改めて思います。

木ノ下――本当にそうですね。鑑賞サポートは些細なところからでも始められます。字幕や手話通訳が難しかったらまずは台本貸し出しから始めてもいい。先に台本のPDFをメールでお送りするだけなら予算は実質ゼロ円ですね。極端な話、字幕タブレットができないのなら、おひとり様限定になってしまいますが、舞台の明かりが漏れる席に座ってもらって、僕が横で台本を広げ、「今、ここをしゃべっています」と指していくだけでも、立派な鑑賞サポートです。どこまでやるかは予算の問題ですが、やるかやらないかは、劇団や劇場の理念に関わる問題ですね。

桑原――一人限定だけど僕が付く、という言葉を聞いて、「私もやろう」と思いました。プロの音声ガイドや手話通訳が必要だと思っていましたが、自分だけでもできることがあるんだと、今、めちゃくちゃ感動しました。PLATの劇場スタッフが考え抜いてやっているので、私も教わるような立場で、これから実践しようと改めて思いました。ありがとうございます。

Pura pura
バラコの
寄り道ぷらぷら

# 劇場の公共性と複数制を考え続けている。

## 木ノ下裕一

まつもと市民芸術館 芸術監督団 団長／芸術監督［演劇部門］

**木ノ下裕一**
［きのした・ゆういち］
木ノ下歌舞伎主宰。1985年、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受け、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。2016年に上演した『勧進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回（令和元年度）京都府文化賞奨励賞受賞。NHKラジオ第2『おしゃべりな古典教室』のパーソナリティーを務めるなど多岐にわたって活動中。単著に『物語の生まれる場所へ 歌舞伎の源流を旅する』がある。2024年からまつもと市民芸術館芸術監督団団長に就任。

# Information

## PLAT主催・共催公演情報

### 市民と創造する演劇 好評発売中
### 『赤鬼』
**舞台手話通訳付きバージョン**
**3/7［土］13:00開演／17:30開演**
**3/8［日］13:00開演**

人間と人間が繋がるために本当に必要なことは何かを問いかける野田秀樹の『赤鬼』を、2025年度の「市民と創造する演劇」では舞台手話通訳付きで上演します。
作＝野田秀樹
脚色・演出＝樋口ミユ
振付＝武田幹也
音楽協力＝棚川寛子
舞台手話＝加藤真紀子、高田美香、水野里香
出演＝オーディションで選ばれた市民／山崎皓司
会場＝PLATアートスペース
料金＝［全席自由・日時指定・整理番号付］
一般2,000円、U25 1,000円、高校生以下500円
※7日（土）17:30の回のみ終演後トークあり

3月8日のみ　3月7日 13:00のみ

### 『いのこりぐみ』 予定枚数終了
**3/20［金・祝］18:30開演**
**3/21［土］13:00開演／18:00開演**
**3/22［日］13:00開演**

三谷幸喜の書き下ろし新作舞台を、小栗旬主演で上演！小学校の教室で繰り広げられる、モンスターペアレントをテーマにしたワンシチュエーションのディスカッション劇。
作・演出＝三谷幸喜
出演＝小栗旬、菊地凛子、平岩紙、相島一之
会場＝PLAT主ホール

3月21日 13:00のみ

### プラット2026年度 プログラム説明会
**4/26［日］14:00開演**

2026年度のプラット主催・共催プログラムを一挙ご紹介いたします。若手音楽家によるコンサートや、毎年好評のプレゼント抽選会もお楽しみに！
会場＝PLATアートスペース
料金＝無料（整理券または劇場ホームページから要申込）
※整理券は4月1日（水）より配布予定

### ケムリ研究室 no.5
### 『サボテンの微笑み』
**4/29［水・祝］12:00開演**

毎公演手触りの異なる作品を作り上げてきたケムリ研究室による待望の新作公演。大正、昭和初期の日本を舞台に兄妹が暮らす家を訪れる人々の姿を描きます。
会員先行＝2月28日（土）
一般発売＝3月15日（日）
作・演出＝ケラリーノ・サンドロヴィッチ
出演＝緒川たまき、瀬戸康史、瀬戸さおり、清水伸／赤堀雅秋、萩原聖人／鈴木慶一
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］12,000円
［主催：キューブ］

共催

### 『るつぼ The Crucible』 好評発売中
**4/11［土］12:00開演／17:30開演**
**4/12［日］12:00開演**

1692年にアメリカ・マサチューセッツ州で実際に起きたセイラム魔女裁判を題材に、集団心理の恐怖と人間の尊厳を描くアーサー・ミラーの『るつぼ』を上村聡史が演出！現代にも通じる疑心暗鬼と欲望の問題を鋭く問いかけます。
作＝アーサー・ミラー
翻訳＝水谷八也
演出＝上村聡史
出演＝坂本昌行、前田亜季、松崎祐介、瀧七海 ほか
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］12,000円
［主催：東海テレビ放送／キョードー東海］

4月11日 12:00のみ

共催

SELECT 4 マイセレクト4 対象公演

**託児サービス対象公演**
要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンター・劇場ホームページまで

**ポータブル字幕機貸出対象公演**
聴覚に障がいのあるお客様のためのポータブル字幕機の貸出あり【要事前予約】

**舞台説明会対象公演**
視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会あり【要事前予約】

## Pick up
# 『メアリー・ステュアート』

**スコットランドとイングランド、二人の女王メアリー・ステュアートとエリザベス1世。**
**かたや刑務所に留置されたクイーン、かたや王冠に縛られたクイーン――**
**二人の女王を巡る、愛と憎悪、権力と運命のシーソーゲーム。**

**5/21［木］18:00開演**
**5/22［金］13:00開演**
**5/23［土］13:00開演**
会員先行＝2月14日（土）
一般発売＝2月21日（土）

原作＝フリードリッヒ・シラー
翻案＝ロバート・アイク
翻訳＝小田島則子
演出＝栗山民也
出演＝宮沢りえ、若村麻由美／橋本淳、木村達成、犬山イヌコ、谷田歩、大場泰正、宮﨑秋人、釆澤靖起、阿南健治、久保酎吉／段田安則 ほか

会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］S席12,000円、A席9,000円 ほか
※発売初日はお一人様一申込につき1公演4枚までの枚数制限あり

5月23日のみ

### とよはしアートフェスティバル2026
### 大道芸inとよはし
**5/4［月・祝］・5/5［火・祝］**

マイムにアクロバット、JAZZ演奏など、世界で活躍する大道芸人たちが、PLAT北側広場などの屋外でパフォーマンスを行います。
会場＝PLAT 北側広場 ほか
料金＝無料
※詳細は決まり次第、ホームページにて公開予定

### 講談 一龍斎貞鏡独演会
**5/30［土］14:00開演**

芸道と子育てを両立しながら、様々な挑戦を続ける今話題の講談師、七代目一龍斎貞鏡がプラットに初登場。
会員先行＝3月7日（土）
一般発売＝3月14日（土）
出演＝一龍斎貞鏡
会場＝PLATアートスペース
料金＝［全席自由・整理番号付］
一般3,500円 ほか

**【ボランティアスタッフ募集】**
『大道芸inとよはし』を一緒に盛り上げる仲間を大募集！
活動時間＝各日10:00～18:00を予定
参加条件＝18歳以上で事前説明会のどちらか一日に参加できる方
事前説明会＝4月10日（金）19:00～21:00、11日（土）13:00～15:00（同様の内容です）
会場＝PLAT創造活動室A
募集人数＝40名程度（申込順）
申込方法＝4月3日（金）までに
①参加申込書を窓口・FAX（0532-55-8192）にて提出
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

# One coin concert
## ワンコインコンサート

### 『ル・コント ～この世界に19文字の文章など存在しない～』
**6/6［土］・6/7［日］**

現代音楽×映像×身体表現×笑い!?
笑いのカリスマ・小林賢太郎が気鋭のクリエイター達と新たに創り上げるのは、音楽・映像・身体がインタラクティブに混ざり合う、新感覚の「コント」!?
会員先行＝2月28日（土）
一般発売＝3月14日（土）
作・演出＝小林賢太郎
出演＝野間口徹、なだぎ武、竹井亮介、うらじぬの、平原慎太郎
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］9,000円 ほか
［主催：サンライズプロモーション］ 共催 6月6日のみ

©yistage

### 小曽根真トリオ TRiNFiNiTY featuring 松井秀太郎
**6/11［木］18:30開演**

世界へと躍進を続ける小曽根真の最新トリオ、TRiNFiNiTY。トランペット界の新星として注目を集める松井秀太郎をゲストに迎えて熱いステージを繰り広げる。小曽根と若手トップミュージシャン達との最高のライブをお届けします！
会員先行＝3月14日（土）
一般発売＝3月28日（土）
出演＝小曽根真［ピアノ］、小川晋平［ベース］、きたいくにと［ドラムス］、松井秀太郎［トランペット］
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］
S席一般7,000円、A席一般4,500円 ほか

©Takumi Saitoh

### 若手音楽家育成事業 プラットワンコインコンサート
好評発売中

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。
会場＝PLATアートスペース
料金＝［全席自由・日時指定・整理番号付］500円
上演時間＝60分

### 中村由紀子「マリンバで紡ぐ水の変容」
**2/4［水］14:00開演**

出演＝中村由紀子［マリンバ］
演奏予定曲目＝ジェイコブ・ドラックマン：水の反映、クリストファー・テオファニディス：アリア ほか

中村由紀子［マリンバ］

### Resonants（レゾナンツ）「フランスから広がる音の旅」
**3/11［水］14:00開演**

出演＝伊藤澄香［ヴァイオリン］、河邊直生［ピアノ］
演奏予定曲目＝ラヴェル：ツィガーヌ、水の戯れ ほか

伊藤澄香［ヴァイオリン］ 河邊直生［ピアノ］
©井村重人

# Work shop
## ワークショップ・レクチャー

### 「まちと創る演劇」発表会
**～豊橋にある「世界」を見つける篇～**
**1/25［日］14:00**

台本のないところから演劇をつくるワークショップの成果発表として、豊橋に暮らす外国にルーツのある人々の声をもとに創り上げた舞台を上演します。
会場＝PLAT 創造活動室A
進行役＝柏木陽
出演＝「まちと創る演劇」参加者
定員＝40名（先着順）
料金＝無料
申込方法＝
①プラットチケットセンター窓口・電話（0532-39-3090）
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

### 旅する舞台映像シリーズ ～つくり手と観客を結ぶ上映会&トーク～
### 幻灯劇場 音楽劇『鬱憤』
**上映会&藤井颯太郎トーク**
**2/6［金］18:30～21:00**

幻灯劇場による音楽劇『鬱憤』を上映すると共に、作・演出・出演を務めた藤井颯太郎さんをゲストにお迎えしてのトークを開催します。
会場＝PLAT 創造活動室B
ゲスト＝藤井颯太郎
対象＝どなたでも（未就学児入場不可）
定員＝40名（先着順）
参加費＝一般1,000円、25歳以下500円
申込方法＝
①プラットチケットセンター窓口・電話（0532-39-3090）
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

音楽劇『鬱憤』舞台写真 ©中谷利明



# Ticket center
## チケットセンター

### チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター
◉オンライン
https://toyohashi-at.jp［24時間受付・要事前登録］
◉電話・窓口
0532-39-3090［休館日を除く10:00－19:00］

発売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。
翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

### U25・高校生以下割引で案内
ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
◉料金＝U25［25歳以下］：公演ごとに指定する席種の半額／高校生以下：1,000円
◉購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。
◉その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
※一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

### プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料
◉特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

### ダンス・レジデンス2025 はらだまほ
**おやこでたのしむおどりのワークショップ「からだのことばでおしゃべりしよう」**
**2/10［火］14:00～14:45（6～12か月児と保護者）**
**2/12［木］10:00～10:45（12～24か月児と保護者）**

からだをのびのびと動かしながら、親子でおどりを楽しみます。
会場＝PLAT 創造活動室B
講師＝はらだまほ
定員＝各日10組（先着順）
参加費＝1組500円
申込方法＝
①プラットチケットセンター窓口・電話（0532-39-3090）
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

### 公開ミーティング
**2/14［土］14:00～16:00**

多彩な特性を持つスペシャルニーズの子どもに向けた舞台芸術に関する意見交換をします。
会場＝PLAT 創造活動室B
対象＝どなたでも
定員＝20名（先着順）
参加費＝無料
申込方法＝
①プラットチケットセンター窓口・電話（0532-39-3090）
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

### プラット演劇研究&劇評講座2025「演劇を観る、語る -作品にもう一歩近づくレッスン」
**2/28［土］13:00～16:00（レクチャー）**
**3/15［日］13:00～16:00（実践）**
**※単発受講可**

市民と創造する演劇『赤鬼』舞台手話通訳付きバージョンの観劇に向けた演劇研究と劇評の講座を実施します。
会場＝PLAT 研修室（大） ほか
講師＝山口宏子
対象＝高校生以上で、3月7日（土）・8日（日）にプラットで上演する市民と創造する演劇『赤鬼』舞台手話通訳付きバージョンを観劇予定の方。
定員＝各回15名（先着順）
参加費＝各回一般1,000円、25歳以下500円
申込方法＝
①参加申込書を窓口・FAX（0532-55-8192）にて提出
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

### 舞台手話通訳付き公演 『楽屋 -流れ去るものはやがてなつかしき-』 出演者募集
2022年度に上演した清水邦夫の代表作『楽屋』の舞台手話通訳付き公演を樋口ミユの演出で再演します。本公演に出演する女優D役を募集します。
対象＝18歳以上（高校生除く）で、18歳～20代に見える女性。稽古、9月22日（火・休）・23日（水・祝）の公演に全日程参加できる方。
審査日＝4月18日（土）・19日（日）※両日とも参加
参加費＝無料
申込方法＝3月31日（火）17:00までに
①参加申込書を窓口・郵送にて提出
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

2022年度『楽屋』舞台写真 ©伊藤華織

### 高校生と創る演劇『わたしの星』 出演者&スタッフ募集
高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに演劇の上演に挑む「高校生と創る演劇」。2026年度は、柴幸男の代表作『わたしの星』を、藤田恭輔（かるがも団地）による演出で上演します。本公演の出演者オーディションを兼ねたワークショップを開催します。
対象＝2008年4月2日～2011年4月1日生まれで、稽古、11月7日（土）・8日（日）の公演に参加できる方。
オーディションワークショップ＝
5月16日（土）・17日（日）のいずれか1日と5月23日（土）
参加費＝無料
申込方法＝4月27日（月）17:00までに
①参加申込書を窓口・郵送にて提出
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

### 藤田恭輔 演劇ワークショップ
**3/23［月］13:30～16:00**

2026年度の「高校生と創る演劇」で演出を務める藤田恭輔による、中学3年生～高校生向けの演劇ワークショップを行います。
会場＝PLAT創造活動室A
講師＝藤田恭輔
対象＝14歳～17歳
参加費＝500円
定員＝20名（先着順）
申込方法＝
①参加申込書を窓口・FAX（0532-55-8192）にて提出
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

2024年度高校生と創る演劇『Journey Over the Rainbow』舞台写真 ©伊藤華織

# Column:2

## 『るつぼ The Crucible』

**4月11日[土]12:00開演／17:30開演　12日[日]12:00開演**
**作＝アーサー・ミラー　翻訳＝水谷八也　演出＝上村聡史**
**出演＝坂本昌行、前田亜季、松崎祐介、瀧 七海／伊達 暁、佐川和正、夏子、大滝 寛、那須佐代子、大鷹明良／斎藤直樹、内田健介、浅野令子、米山千陽、長村航希、武田知久、星 初音、安藤ゆり、山本毬愛**
**会場＝PLAT 主ホール**

**『セールスマンの死』『橋からの眺め』など、アメリカ社会の光と影から人間の本質を骨太に描く劇作家アーサー・ミラーが1953年に発表した『るつぼ（The Crucible）』は、時代を超えて上演され続けてきた戯曲です。17世紀のマサチューセッツ州セイラムで実際に起こった“魔女裁判”を題材に、集団心理がもたらす恐怖、噂が肥大化する社会の脆さ、人が信念を貫くことの困難さを鋭く描く本作。欲望と不安が絡み合い、人間の弱さが引き起こす悲劇は、現代に生きる私たちにも鮮烈な問いを投げかけます。**

**この名作に挑むのは、『エンジェルス・イン・アメリカ』一挙上演の演出を務めた上村聡史と、『凍える FROZEN』で第48回菊田一夫演劇賞を受賞した坂本昌行。二人は2021年『Oslo（オスロ）』以来、満を持して再びタッグを組みます。骨太なドラマを精緻に立ち上げる上村の演出と、深い洞察力と存在感で人物の内奥を掘り下げる坂本。確かな信頼関係で結ばれた二人だからこそ到達できる新たな『るつぼ』をお贈りします。**

**たった一度の過ちが、**
**男のすべてを焼き尽くす。**
［あらすじ］17世紀、マサチューセッツ州セイラム。夜の森で裸で踊る少女たちが目撃される。その中の一人は原因不明の昏睡状態になったことで、街に不穏な噂が駆け巡る。少女の一人アビゲイルは「ただ踊っていただけ」と主張するものの、彼女の心には別の思惑が秘められていた。かつて関係を持った農夫ジョン・プロクターへの執着、そしてその妻エリザベスへの激しい嫉妬。アビゲイルは自身の欲望のために、無実の村人たちを次々に“魔女”だと告発し始める。次第に聖女として扱われるようになったアビゲイルは、ついに、エリザベスをも“魔女”として告発。宗教家や法律家たちの思惑もからみ合い、セイラムの裁判は異様な様相を呈して、「るつぼ」と化す――

**信念を貫くプロクターが投げかける問い。**
上村聡史（演出）
「『るつぼ』も、古典作品と肩を並べる名作だと思います。なによりもジョン・プロクターをはじめとする登場人物それぞれが、格差、性愛、政治、秩序といった様々な次元で葛藤します、そのドラマ性こそが『るつぼ』の醍醐味といえます。『Oslo（オスロ）』でご一緒させていただいた坂本昌行さんと再び創作を共にできればと願い、是非プロクターを演じてもらいたいと考えていました。無骨なまでに己に実直である一方、愛すべき者への信念を貫くプロクターは、坂本さんが演じることで、名作の上演という枠を超えて、人は何を大切にして混沌の世界を生きなくてはいけないのか、そういう切実な問いかけを新鮮に投げかけてくれることになるかと思います。どうぞご期待ください。」

**不朽の名作に挑む喜び。** 坂本昌行（出演）
「アーサー・ミラーの不朽の名作『るつぼ』に出演できることの喜びを感じています。人間の葛藤や信念、弱さを描いているこの作品を、上村さんをはじめスタッフの皆さん、共演者の皆さんとともに深く掘り下げていきたいと思います。是非、劇場でこの濃密な人間ドラマを一緒に体感してください。」



# Sponsor 広告募集


知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

Gallery 48　呉服町48 TEL.54-4848

有限会社 魚伊
電話52-5256

ケンチク クロノ
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

なければつくる
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283（代）

創業文政年間
日本料理 きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

DAIHOU 60th anniversary

豊橋銀行協会（順不同）
三菱UFJ銀行　みずほ銀行　静岡銀行　名古屋銀行
三井住友銀行　三井住友信託銀行　清水銀行　三十三銀行
十六銀行　愛知銀行　中京銀行　大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
御菓子司 若松園

気まぐれコンサート
事務局／0532-62-9259（小川）

安心・安全な地下駐車場
パーク500
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円（上限4時間まで）に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長兼院長 塩之谷 香・副院長 栗田和洋
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115（代）

豊橋名産 ちくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間　月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00　休診日＝水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ


# Support 特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

株式会社アイセロ
旭精機株式会社
株式会社イクモ
税理士法人イグラ会計
イノチオホールディングス株式会社
株式会社エクスラージ
大和田和恵
株式会社オリエント楽器
医療法人佳道会 藤城歯科医院
蒲郡信用金庫
川西塗装株式会社
河原崎 妙
株式会社三光製作所
三光精密工業株式会社
サーラエナジー株式会社
株式会社サーラコーポレーション
三遠機材株式会社
株式会社東雲座カンパニー
株式会社シュガーサウンド
大三紙業株式会社
戸田淳子
トヨタネ株式会社
トヨネン株式会社
株式会社豊橋印刷社
豊橋芸術文化事業サポート株式会社
豊橋ケーブルネットワーク株式会社
豊橋信用金庫
豊橋倉庫株式会社
豊橋鉄道株式会社
早川直宏
株式会社平松食品
藤城建設株式会社
学校法人藤ノ花学園
株式会社豊川堂
まちなかビブリオ倶楽部
松井商事株式会社
村田小児歯科センター
物語コーポレーション
山脇康宏
有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
ゆーもあねっと
若松園
匿名会員４名
（五十音順）

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話＝0532-39-8810［代表］（9:00－20:00）
開館＝9:00－22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅（JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道）、
新豊橋駅（豊橋鉄道渥美線）直結。豊橋駅南口から徒歩３分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT